

第66回 全国高校 スケート 第3日

1年・赤坂(八西)12位 男子千

スピード

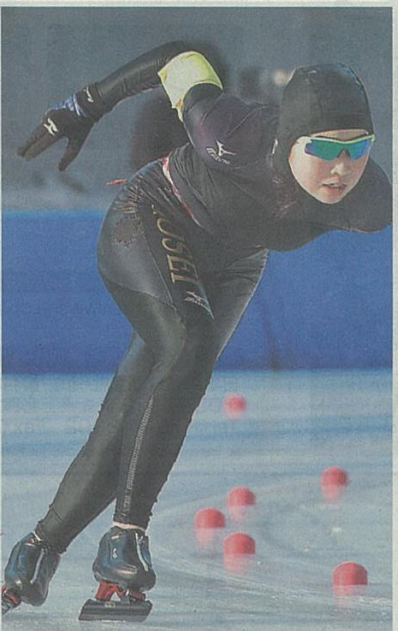
①日光霧降スケートセンター
 ▼男子1000m ①久保向希(北海道・白樺学園) 1分12秒39
 ②堀川大(北海道・白樺学園) 1分13秒18
 ③若佐(北海道・帯広南商) 1分13秒43
 ④赤坂(八戸西) 1分18秒31
 ⑤下館信司(同) 1分19秒39
 ⑥木村尚貴(八戸商) 1分21秒39
 ⑦松本匡平(八学光星) 1分22秒66
 ⑧小林大悟(同) 1分24秒95

▼女子1000m ①長崎計和子(北海道・池田) 1分24秒07
 ②宇佐見(北海道・帯広農) 1分25秒86
 ③両角(長野・東海大諏訪) 1分26秒02
 ④尾崎里以真(八戸西) 1分31秒82
 ⑤加賀ひかり(同) 1分32秒57
 ⑥岡堀有希(名久井農) 1分45秒16

入賞逃し悔しげ
 ○…1年生ながら1分18秒31で県勢最高の12位に入ったスピード男子1000mの赤坂(八戸西)。しかし、目指した入賞(8位以内)には届かず表情は硬かった。今月の全日本ジュニアで1分16秒40を記録。今大会は全日本時よりも調子がよく好記録を出す自信があったが、レースでは思つよつに脚が動かなかったといふ。実力を発揮できれば入賞ラインの

16秒台後半を上回った可能性があるだけに「全然つれしくない」と最後まで悔しげだった。今季、県内3大会の同種目で負け知らず。東北大会でも3位だった有望株は、「速い人はコーナーでの加速、直線の伸びの技術が違つ」と課題を挙げ、成長を誓った。

目標タイムに届かず
 ○…スピード女子3000mの杉村(八戸西)は34位、根本(八学光星)は35位と振るわず、ともに目標の4分台に約7秒届かなかった。



【スピード女子3000m】5分7秒49で35位だった根本(八学光星)

トタイムを記録し「5分は切れなかったけれど、内容はまずまず」と手応え。北海道の大学で学ぶ。将来は「屋内スケート場ができる八戸に、指導者として戻ってきたい」と笑顔で話した。

昨年のインターハイで5分0秒40だった根本は、関内の4分台を目指し、

夏のトレーニングで悪化した腰の痛みと闘いながら滑走したが、後半に失速し届かず。「腰の痛みを言い訳にしたくない。毎大会ベストタイムを出せるように頑張る」と意気込んだ。

水掬えられず32位
 ○…スピード女子1000mの尾崎(八戸西)は、屋外リンクでは自身の初1分31秒台でゴールしたが、うまく氷を掬えられなかったといい、「前に進んでいる感じがしなかった」と振り返った。

最初のカーブ出口で左足が滑りバランスを崩して減速。同走との競り合いで闘争心に火がつきタイムは伸びたが、32位に終わった。学校対抗で上位を狙つチームのため、得点を与えられる24位以内が目標だったといい、「自己ベストが出たのはよかったけれど、滑りはダメだった」と悔しがった。

フィギュア
 ▼男子予選(ショートプログラム)
 ①友野一希(大阪・浪速) 76点
 ②本田(大阪・関大高) 59・30点
 ③唐川(神奈川・岸根) 58・43点